
secret

konoha

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

secret

【NZード】

N0835D

【作者名】

konoha

【あらすじ】

アメリカに旅立った彼の帰りをひたすら待ち続ける私。一ヶ月後に彼はようやく帰ってきたが、そこにはある秘密があった。

(前書き)

よかつたら読んでみてください。

月明かりが静かにこぼれる真夜中。私は何度も彼と抱き合っていた。

愛しい温もり。それをもう手放さないよ。

「ずっと逢いたかった。やっと帰ってきててくれたのね」

「ああ。心配かけてすまなかつた」

懐かしい声の主は、かつてと同様に、数えきれないほどキスをくられた。

私は彼を引き寄せ、きつく抱き締めた。一人の距離が縮まっていく。

そうしているうちに、部屋に甘い吐息が漏れるようになり、私は幸福な思いを抱きながら、扉を閉じた。

彼がいなかつた一ヶ月。それは苦しみ以外の何物でもなかつた。

彼は売れっ子の作曲家で、数々のアーティストに楽曲を提供する忙な日々を送っていた。

だが最近、彼はこれまでにも増してひどく疲れ果てていた。

新しい曲が作り出せない。その苦しみは、日々募っていました。

そんな彼を心配していたが、そのたびにいつも言われた。

「大丈夫だよ。こんなことは、よくあるから」

だがその言葉とは裏腹に、彼は口増しに元気を失つていった。

彼がアメリカに経つと口にしたのは、ちょうどその頃だ。

いつになく晴れやかな笑顔で、こう切り出した。

「見知らぬ地へ行けば、何かいいアイデアが浮かぶかもしれない」

彼の口調が明るいものだったので、私は反対しなかった。

だが予定されていた帰国日から、一週間が経ち、二週間が経つても

彼は帰つてこなかつた。

不審に思い、電話を掛けたが繋がらない。

「どうして・・・」

眠れない日々が続いた。彼の身に何らかのトラブルが起つたのか？

それでも、私はひたすら彼の帰宅を待ち続けた。

そしてそれから一ヶ月が経過した。私はそれまでに感じていた寂しさをぶつけ、彼は受け止めてくれた。

だが、なぜか私の目から涙が溢れた。喜びではなく、悲しみの。

「あなたは・・・あの人じゃない」

私は目が見えない。だが微妙な違いを、心で感じ取ることはできた。

「あなたは、あの人の弟さん、よね」

長い沈黙が部屋を包む。私はビックリして声に出して言った。

「あの人は、ビルへ」

「ビルから飛び降りて亡くなつた」

しばらく間を置いて、彼は言った。

「あなたはそれを、知つてゐるはずだ」

そうだ。本当はずつと前から知つていたが、事実を認めたくなかつた。

なおも涙を流す私に、

彼は言った。

「君がひどく落ち込んでいると聞いて、訪ねてきたんだ。何か力になれないかと、思つて」

「私はこれから、何を支えに生きていけばいいの?」

答えはいまだに見えない。

私は彼の胸に顔を埋めた。そして、気がすむまで、ただただ泣き続けることしかできなかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0835d/>

secret

2010年11月24日06時07分発行